

# ひょうごの遺跡

昭和59年10月15日発行  
兵庫県教育委員会  
社会教育・文化財課  
兵庫県埋蔵文化財調査事務所  
〒652 神戸市兵庫区荒田町  
2丁目1番5号  
Tel(078)531-7011(代)

〔題字 教育長 井野辰男書〕

## 埋没水田を検出した弥生時代のムラ 60. 3.-9

——玉津田中遺跡(神戸市西区玉津町田中)——

玉津田中遺跡は神戸市西区玉津町田中にあり、住宅・都市整備公団による総面積31haの大規模な区画整理事業を計画されたことが、この遺跡を調査するきっかけになりました。

発掘調査は、昭和57年4月から始められ、現在も調査中であり、さらにあと数年を要する予定です。

遺跡は明石川中流域の左岸にあり、その大部分は沖積平野<sup>(1)</sup>で、一部洪積段丘<sup>(2)</sup>をも含んでいます。

沖積平野の地下に埋れた遺跡を調査するとき、旧河道、自然堤防状微高地<sup>(3)</sup>、後背湿地<sup>(4)</sup>などの微地形を考慮しながら行う必要があります。

それは人間の活動が地形の変化と密接な関係にあるからです。

現在、平坦にみえるこの遺跡においても、弥生時代にはかなり起伏にとんだ地形を形成していたことが、今回の調査で判ってきています。

調査範囲が広いため、まだ、全体を十分に把握できないところもありますが、いままで判ってきたことを航空写真で示した地点ごとに述べていきます。

調査地域のなかで、自然堤防状微高地は4ヶ所ほどみとめられ、居住地と墓地に利用していることが確かめられています。



水田跡に残された足跡





玉津田中遺跡の航空写真





弥生時代前期の住居跡（A微高地）



弥生時代中期の壺棺（B微高地）

A微高地は弥生時代前期の居住地です。ここからは竪穴住居跡、土壇、溝を検出しました。この微高地では、弥生前期の遺物しか出土せず、中期には居住地に適さない地形に変化したと考えられます。

B微高地は弥生時代中期の居住地です。掘立柱建物跡、土壇、壺棺などの遺構とともに、多くの土器、石器なども出土しています。

C地点からは弥生時代中期の水田跡を検出しました。この埋没水田は微高地から後背湿地へ移り変るところにあり、大きな畦(大畦畔)や小さな畦(小畦畔)によって区画されています。

水田跡と居住地の間には幅30数mの旧河道がありますが、同じ時代のものとしたのは、この両方の遺構面(当時の地表面)を覆っていた砂



水田跡の畦の断面



弥生時代中期の周溝墓（D微高地）

が一度の洪水によって堆積したからです。

この水田の1筆の面積には大小があり、大きいもので150㎡前後、小さいもので35㎡前後になります。

D地点の微高地からは、弥生時代中期の周溝墓と呼ばれる四周に溝を配した墓を、8基ほど確認しています。一辺10m前後の大きな方形周溝墓の回りに、周溝を共有した不定形な小さい周溝墓(2~4m)を築いています。大きな方形周溝墓は、この集落の村長クラスとみることができます。

このように弥生時代中期の居住地(住居跡)生産跡(水田)、墓地(周溝墓)という村の構造を地形との関連で捉えられたことは、玉津田中遺跡の発掘調査の大きな成果のひとつといえます。

#### (用語解説)

- (1)沖積平野…過去2万年の間に、河川や海の作用により、埋め立てられてできた平野。
- (2)洪積段丘…段丘はかつての氾濫原が開析され、崖を伴い階段状になった地形面。洪積段丘は、そのうち2万年以前に作られたもの。

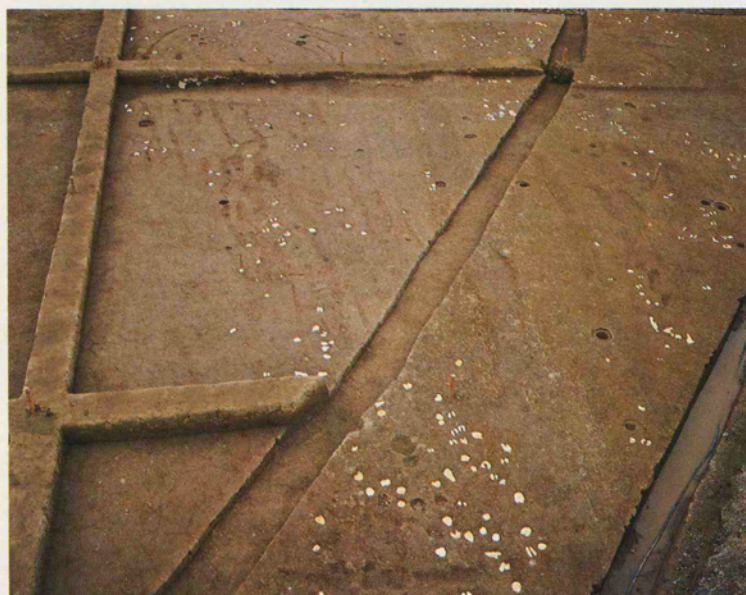
- (3)自然堤防状微高地…河川の氾濫堆積物からなり、河岸に分布する紡錘形の高まり。後背湿地とは50cm内外の比高がある。集落が立地したり、畑地に利用されやすい。
- (4)後背湿地…自然堤防状微高地の背後にできる湿地。水田などに利用される。





志知川沖田南遺跡水田跡

志知川沖田南遺跡では、古墳時代前期の水田跡141筆が調査されました。水田は、河川の後背湿地を中心に開田されており、大畦畔で大きく仕切られた後、小畦畔で区画されています。水田の大きさ、形は不定形で、水田の端では河川に沿って用水路が掘られています。水田には、水の保温や調節などのさまざまな工夫がなされています。農具も河川から2点出土しました。



福田片岡遺跡の水田跡に残された耕作の跡

法隆寺領播磨国<sup>いかるがのしやう</sup>鶴荘域の福田片岡遺跡で発見された、12世紀代と考えられる水田跡です。

水田面は洪水による砂で覆われており、14世紀の溝や柱穴、15～16世紀の堀で北限などは壊されていますが、溝と畦<sup>あぜ</sup>で区画された長地型の水田には、犁<sup>うり</sup>の跡が残っています。犁を引いたと思われる牛の足跡や、牛の口取り、犁を支える人の足跡なども多数発見されています。発掘調査は、中世館跡を含め継続中です。

県下出土の装飾大刀地名表（2号）の追加です。

通番	古 墳 名	所 在 地	大 刀 形 式
19	御 園 古 墳	尼崎市御園	双鳳式環頭大刀
20	袋尻浅谷2号墳	揖保郡揖保川町袋尻	素環頭大刀
21	沢の浦坪古墳	多紀郡西紀町小坂	頭椎大刀



## 遺跡散歩 — 明石川周辺 —

### ＜交通機関＞

国鉄山陽本線明石駅下車、神姫バス三木方面行「吉田」下車、吉田郷土館まで神明道路を西へ徒歩5分。

今回は明石川流域の遺跡のいくつかを紹介します。

この周辺の遺跡を訪れるときには、最初に吉田郷土館に立ち寄るのがよいでしょう。片山遺跡、吉田南遺跡の出土品を中心に、周辺の遺跡から出土した遺物が展示されています。

郷土館裏の丘陵上には、近畿地方の弥生時代最古のムラのひとつとして有名な吉田遺跡があります。

吉田遺跡から北へ500mの同じ丘陵上に、王塚古墳があります。周囲に濠をめぐらした古墳時代中頃の前方後円墳で、よく保存されています。墳丘の長さは69m、周濠を加えると、100mあまりの大きさです。この古墳は陵墓参考地（欽明天皇の長女舎人姫王に比定）となっていて、中には入れません。明石川流域に勢力をもっていた豪族の墓と思われます。

吉田遺跡から明石川を渡って、東へ1.5kmのところに新方遺跡があり、弥生時代の墓や、古墳時代の玉を造った作業場が発見されています。玉造りの作業場は5世紀後半のもので勾玉や管玉などの製品のほか、未製品が数多く出土していて、兵庫県下では初めての発見です。

吉田南遺跡は現在、神戸市環境センターが建っているところです。奈良～平安時代の数多くの掘立柱建物が整然と発見され、明石郡衙あるいは駅家の跡ではないかと推定されています。この遺跡では他に、弥生時代から古墳時代の住居跡も

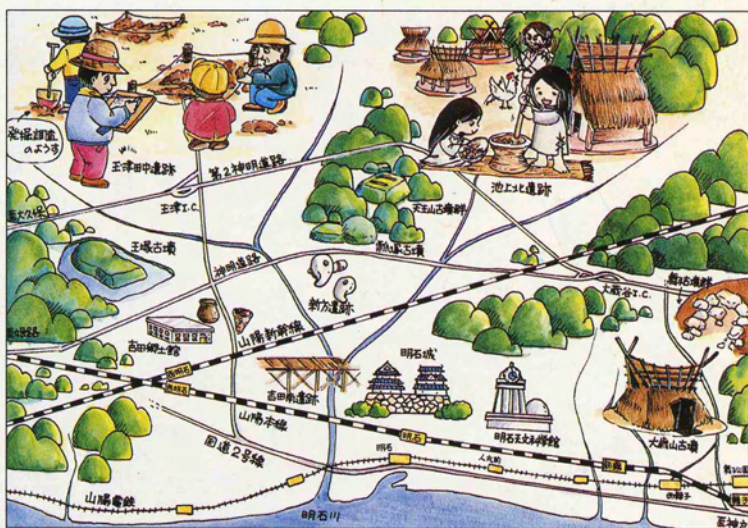


吉田南遺跡の竖穴住居跡

多く発見され、奈良時代の木橋の発見は記憶に新しいところです。

新方遺跡の北東2kmの丘陵上には、この地域で最も古い前方後円墳である瓢塚古墳（全長60m）を見ることができます。また瓢塚古墳の東の丘陵上には、明石川最古の古墳と考えられている天王山4号墳をはじめとする、天王山古墳群があります。

最後に本号で紹介した玉津田中遺跡は、第2神明道路の玉津インターチェンジのすぐ北側にあり、現在も発掘調査が続けられています。



明石川周辺の遺跡



## 兵庫県埋蔵文化財調査事務所の開所記念行事

兵庫県埋蔵文化財調査事務所の開所にあたって、下記のような講演会・解説会・展示(いずれも無料)を行います。多くの方々の御聴講と御観覧をお願いします。(なお、講演会・解説会は申込みが必要です。)

1. 期間 昭和59年10月28日～昭和59年11月11日(15日間)

2. 場所 兵庫県埋蔵文化財調査事務所 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-5 (Tel 078-531-7011)

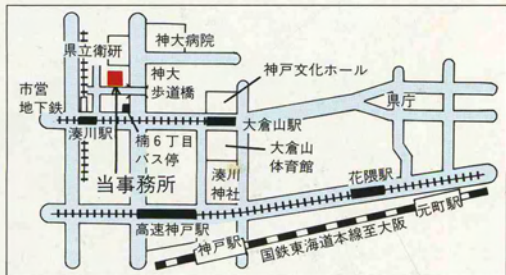
項 目	期 日 ・ 時 間	場 所	内 容
特別講演会	10月28日(日) (午後2時から)	研修室	講師 作家 陳 舜臣氏 演題 「古代中国と日本」
	11月11日(日) (午後2時から)	"	講師 奈良国立文化財研究所所長 坪井清足氏 演題 「木簡からみた古代兵庫」
文化財解説会	11月3日(土) (午後1時から)	"	講師 八鹿町教育委員会主事 谷本 進氏 演題 「箕谷2号墳発掘調査報告」
	11月3日(土) (午後2時から)	"	講師 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター 集落遺跡研究室室長 町田 章氏 演題 「装飾大刀について」
	11月4日(日) (午後2時から)	"	講師 県教育委員会社会教育・文化財課 埋蔵文化財係係長 横本誠一 演題 「最近の発掘調査から」
	11月10日(土) (午後2時から)	"	講師 社会教育・文化財課職員 演題 「発掘調査の成果」
特別展示	10月28日(日) ↓ 11月11日(日)	特別収蔵室他	「県下出土の装飾大刀展」 ※主な出品 1 中井1号墳(龍野市)環頭大刀三累式 2 高畑2号墳(三日月町)環頭大刀双龍式 3 文堂古墳(村岡町)環頭大刀双龍式 4 箕谷2号墳(八鹿町)銘文大刀 5 山田2号墳(丹南町)環頭大刀單鳳式

### ーロメモ 発掘調査は誰でもできるか

遺跡(埋蔵文化財)は、長い歴史の過程において、残ってきた貴重な国民的財産であり、歴史を復原する学術資料として歴史的・文化的価値をもっています。また、遺跡は一度その状態が失なわれると二度と復原できない性質をもち、同じ遺跡は存在しないため代替がききません。

このため、発掘調査は、「文化財保護法」にもとづき、開発に伴う場合はもちろんのこと、学術調査の場合でも事前に文化庁長官あてに発掘届を提出することが、義務づけられています。

発掘調査もまた一種の破壊であることから、考古学の知識と技術をもった人が、明確な目的をもって慎重かつ正確に行う必要があります。したがって、だれでも発掘調査を行うことはできません。



### 編集後記

上記のように兵庫県埋蔵文化財調査事務所で、開所記念行事が行われます。兵庫県教育委員会に文化財を担当する課ができて、ちょうど15年になり、県内の発掘件数も2,600件に達しています。そこで特別講演会や特別展示の他、県教育委員会が収蔵しています出土品の展示や、発掘調査の解説も合せて行います。ぜひ一度、お立寄り下さい。